

情報かわら版

3

2025

- ▷新潟県の畜産女子の取組を紹介！（最終回）
明るく楽しくアクティブに！
女性がつなぐ絆「にいがた畜産女子会」を語り合う！
- ▷米粉の部屋（最終回）
～米粉を 使おう！食べよう！～
- ▷北陸農政局：新プロジェクト
「+みどり計画北陸のたべるとつくるにみどりな未来を。」
- ▷英語版みえるらべるの愛称が決定！
- ▷新潟県拠点の
ホームページに関するお知らせ

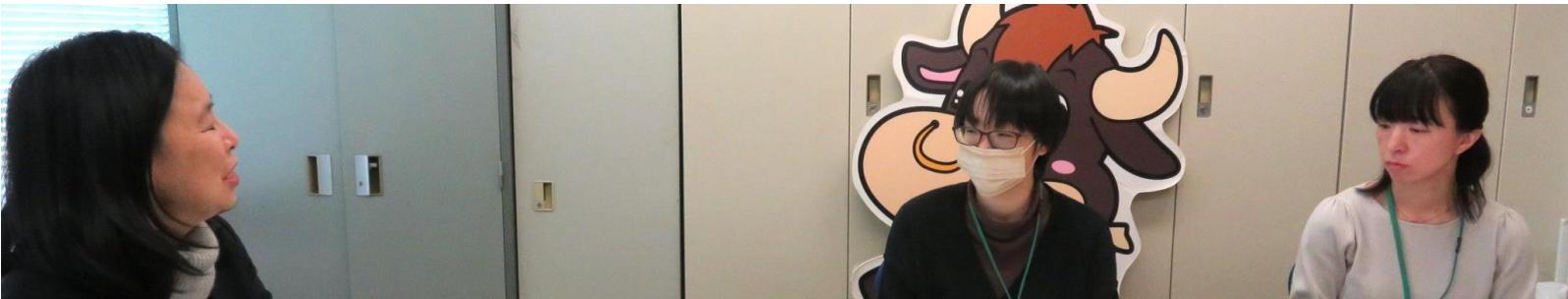
電子版はこちら



明るく楽しくアクティブに！ 女性がつなぐ絆「にいがた畜産女子会」を語り合う！

昨年6月から9回にわたり、新潟県の畜産女子を紹介する記事を連載してきました。10回目となる今回は、今まで紹介した畜産女子の皆さんが所属している「にいがた畜産女子会」を運営する佐藤紫織さん、鈴木奈美子さんにお話を伺いました。

お二人は「公益社団法人 新潟県畜産協会」の職員として勤務する傍ら、「にいがた畜産女子会」を立ち上げ、イベントへの出店や会員向け研修会の企画等を通して、畜産に携わる女性のコミュニティ作りに取り組んでいます。女子会の立ち上げ経緯から今までの歴史・活動の振り返り、そして今後の目標についてじっくり聞いてきました。



▲今回の記事は、佐藤紫織さん（中央）、鈴木奈美子さん（右）、新潟県拠点で畜産振興を担当している三田（左）の対談形式でお送りします。

三田（以下：三）：本日はよろしくお願ひします。早速ですが、まずは佐藤さん、鈴木さんの普段のお仕事内容についてお聞かせください。

佐藤さん（以下：佐）：普段は畜産経営コンサルタントや補助金業務、にいがた和牛の推進協議会事務局の業務など行っています。

鈴木さん（以下：鈴）：普段は総務や経理、人事など幅広い業務を行っています。

三：佐藤さんが実際に畜産農家と接する業務を、鈴木さんが協会組織を運営していくための業務を担当しているんですね。普段のお仕事で両輪を担うお二人だから畜産女子会の運営もうまくいってるのかなって思います。女子会の立ち上げのきっかけは何だったんですか？

佐：（公社）中央畜産会の事業で、女性畜産農家のグループ化を支援する取り組みがあったので、平成27年に最初のグループを作りました。当初は女性畜産農家の方に電話で直接参加を呼び掛けて、会議や意見交換会をやっていたのですが、徐々にガーデニング教室や、牛舎見学など、イベントの種類を増やしていきました。最終的に、女性が集まって活動するグループを正式に作ることになり、平成29年に今の畜産女子会を立ち上げました。

三：立ち上げ前2年間の準備期間の活動が楽しかったから、続けようって声が上がったんですね。企画を考えるのって大変だったんじゃないですか？

鈴：私と佐藤さんで企画を考えるほかにも、協会内で相談して案をもらったり、女子会の皆さんからやりたいことを募集して形にしたりしていますね。

三：過去にはビジネスマナーの講習会や佐渡での勉強会などもされてますが、それも女子会の皆さんの要望を実現したんでしょうか？



▲ビジネスマナー講習（左）や会員の農畜産物を使った料理教室（右）など畜産の枠を超えて様々なイベントを行っています。

佐：そうですね。ほかの人の畜舎を見たいとか、イベントに参加したいという要望が多いです。東京の食肉市場にも行きました。

三：食肉市場ですか。なかなか個人では行けない場所ですね。

佐：個人では行けないし、行く機会があっても旦那さんやお父さんが参加することが多いんです。女子会の名前で声をかけることで女性も行きやすくなることを狙って企画しました。

三：女性が参加しやすいというのは重要ですね。いろいろ工夫してイベントを企画していたところにコロナが流行ってしまって……そんな中でも企画をされていましたね。

佐：ZOOMを使って、オンラインの企画を続けました。健康学習会を開催してストレッチとかもやりましたね。

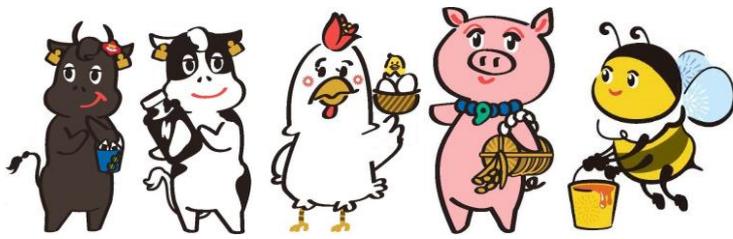
鈴：みんなでカメラ繋いでね。この時に畜産女子会のロゴマークも作りました。



佐：女子会の皆さんからロゴマークに入れてほしい要素を募集して、制作会社の方に何パターンか作ってもらって、投票で決めました。

三：ロゴマーク素敵ですよ。畜産に携わる方々が思いを込めて作ったのが伝わってきます。女子会のキャラクターも皆さんで作ったんですか？

佐：そうですね。まず、制作会社に案を作っていたから会員で意見を出し合い、協会の女性職員に手伝ってもらって作りました。キャラの設定とか衣装の小ネタとか、分かる人には分かるかなと思っています。



▲にいがた畜産女子会のキャラクター。
新潟ならではの小ネタがデザインに取り入れられています。

鈴：会員や協会職員が気持ちを込めて作ったキャラクターなんで、今後もっと活用していきたいです。

三：感染症に注意しつつ、今後対外的なイベントが再開できたらいいですね。

佐：そうですね。その一環で今年度は10月に幕張メッセで開催された農業WEEKに女子会で行きました。

鈴：海外の企業ブースで通訳を交えて商談されてる女子会の方もいました。

佐：皆さん積極的でした。興味を持っている方はたくさんいるんですが、個人では参加しにくいと思う方もいるみたいです。気になるイベントに参加しやすくなるようなきっかけを作り続けたいです。

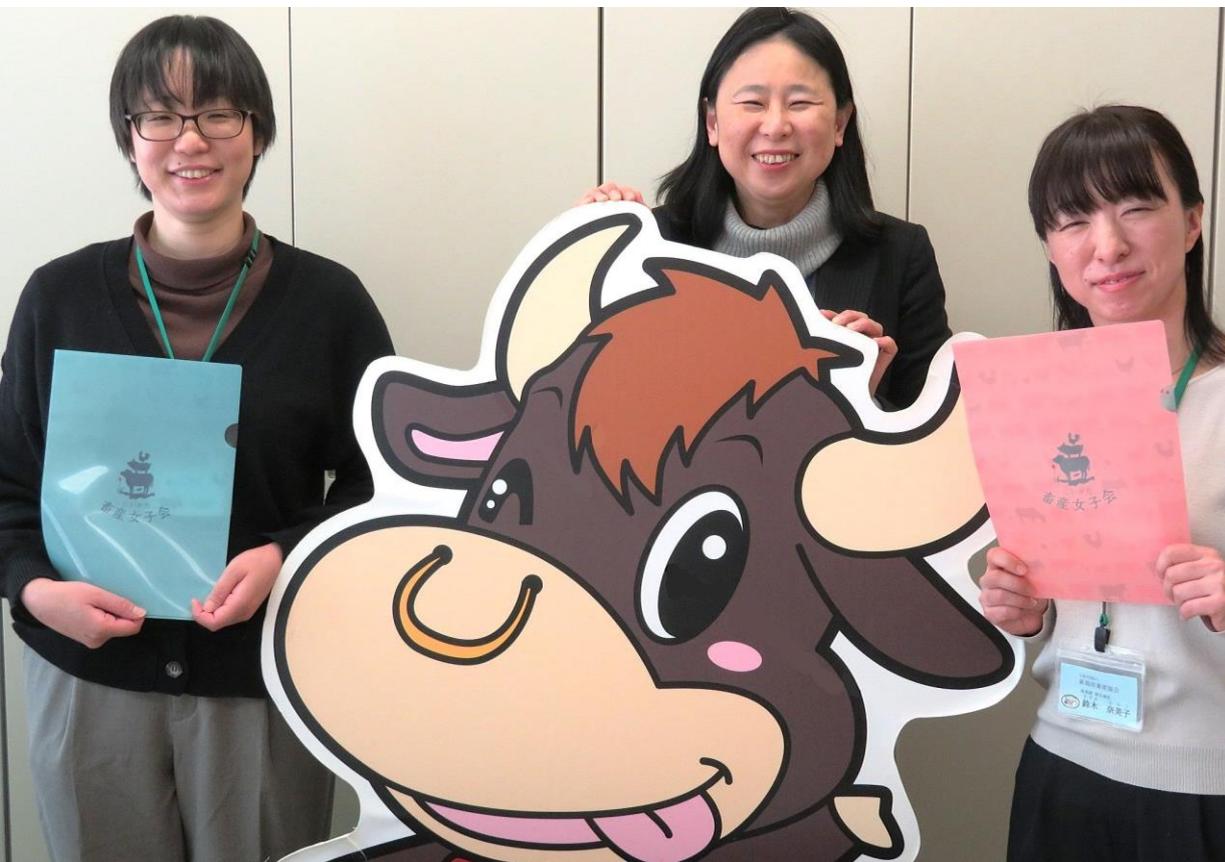
鈴：少しでも多くの会員が参加できるように企画の日程には気を付けています。畜産に携わる以上、多忙で外に出られない時期・時間帯はどうしてもあるので。

三：お二人が会員の皆さんのことを考えて運営しているのがよく分かります。最後に、今後の目標を教えてください。

鈴：肩ひじ張らずに、細く長く女子会活動を続けたいと思っています。コロナ禍前のように対外的なイベントにも積極的に参加して、より活気のある会を作りたいです。

佐：新しいイベントの企画に加えて、佐渡に研修に行ったり、山古志の闘牛を見に行ったり、以前やって楽しかった企画もまたやりたいと思います。

三：そうなんです。今後も連携して活動のPRができればと思います。本日はありがとうございました！



(あしがき)

10回の連載が終わりました。新潟で畜産というと馴染みがないかもしれませんが、しかし県全体の農業産出額のうち、畜産は約2割を占めている重要な産業の一つです。これまでの記事が畜産のイメージ向上や現状を知る一助となれば幸いです。

にいがた畜産女子会の佐藤さん、鈴木さん、お忙しいところ早く取材を受け入れてくださった畜産女子会会員の皆さま、そして連載を読んでくださった皆さま、本当にありがとうございました。

最終回

これまで、米粉の魅力や米粉の特徴を活かした料理、米粉の利用拡大に向けた取組などについてお伝えさせていただきました。
皆さん、米粉をもっと使いませんか！ 食べませんか！

○ 米粉の商品の販売店や米粉料理のお店の紹介はこちら！



北陸農政局HPの「コメコのススメ～北陸発～」では、お米の消費拡大の新たな可能性としての「米粉」の情報を発信しています。

上記サイトの【米粉マップ】では、米粉を利用したパンやケーキ、麺などを取り扱っているお店の情報を紹介しています。

北陸農政局HPの「コメコのススメ～北陸発～」はこちら
<https://www.maff.go.jp/hokuriku/seisan/komeko/index.html>



○ 米粉料理に挑戦しませんか！

米粉情報サイト「米粉タイムズ」では、以下の米粉料理のレシピを始め、米粉の情報が満載！
皆さんも米粉料理を作ってみませんか！ <https://komeko-times.jp/>

【サクサク米粉のからあげ】

油の吸収率が低いので時間が経っても油っこさが出ず、サクサククリスピーな食感。



【新しい風味と食感の米粉の天ぷら】

新しい風味と食感をプラス。
軽やかでサクサクとした衣が魅力的。



～ 私も作りました！ ～

【ほうじ茶カヌレ】



1月号掲載の「和スイーツレシピ帖」を参考に作りました。

ほうじ茶の香りがほんのりして、中はプリンのようにしっとり。お菓子作り初心者ですが、簡単にできました！

農林水産省HP_「和スイーツレシピ帖」
<https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2411/wasweets03.html>



○ 米粉を もっと使って、もっと食べませんか！

例えば、国産米粉パンを1人が1か月5枚食べると、日本の食料自給率が1%アップします！（食パン1枚に含まれる米粉量を40gとして試算）



皆さん、「米粉製品を買う」「お店で米粉料理を食べる」「家庭で米粉を使った料理を作る」など、米粉をもっと使って、もっと食べませんか！

令和6年6月号から連載しました「米粉の部屋」は、今回が最終回となります。
米粉の魅力が皆様に伝わりましたら幸いです。
ご覧いただきありがとうございました。

～ 「米粉の部屋」編集担当一同 ～

新プロジェクト「+みどり計画 北陸のたべるとつくるにみどりな未来を。」の開始及び「地域の環境と食 未来セミナー」開催について

北陸農政局では、地域の環境と食を守るための環を広げていくプロジェクト「+みどり計画」を開始します！

また、このキックオフイベントとして、第1回「地域の環境と食 未来セミナー」を令和7年3月27日（木曜日）13時30分～15時00分にオンラインにて開催します！

1. 新プロジェクトについて

(1) 名称：「+みどり計画 北陸のたべるとつくるにみどりな未来を。」

(2) ロゴマーク



>> 詳細はこちらをクリック！！（北陸農政局HP「+みどり計画」のページ）

https://www.maff.go.jp/hokuriku/kikaku/midori_syokuryou/plus_midori.html



2. 第1回「地域の環境と食 未来セミナー」開催について

(1) 開催趣旨

北陸で「+みどり」な行動に取り組み、またチャレンジしようとする方々を「みどりすと」としてゲストにお招きし、地域に対する想いやこれまでの取組の苦労話・工夫したこと、これから実現していきたいことなどを語っていただきます。

また、北陸農政局から「+みどり計画」の活動方針についても紹介いたします。

(2) 開催日時及び開催方法

開催日時：令和7年3月27日（木曜日）13時30分～15時00分

開催方法：オンライン（Microsoft Teams）による開催

北陸農政局HP
プレスリリース

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/news/press/kikaku/250314.html>



英語版みえるらべるの愛称が決定！

～「ChoiSTAR」であなたも持続可能な農業を後押ししませんか～

農林水産省は、みどりの食料システム戦略に基づき、農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」を推進しています。令和6年3月に本格運用を開始後、同年6月からは「みえるらべる」の愛称で取組を進めてきた中、今般、インバウンド需要への対応や輸出展開を見据え、英語版みえるらべるを作成し、本ラベルの愛称を「ChoiSTAR(チョイスター)」に決定しましたので、お知らせします。

ChoiSTARに込める思い

ChoiSTARは、**Choice**（選ぶ）と**STAR**（星）を掛け合わせています。STARには、**SusTainable AgRiculture**（持続可能な農業）とみえるらべるを特徴づける星の意味が含まれています。消費者の皆様にも見えるらべるのSTAR（星）を目印に環境に配慮した農産物を選んでいただくことで、SusTainable AgRiculture（持続可能な農業）を後押ししてほしいという願いを込めました。

参考:47都道府県でみえるらべる農産物が誕生、販売店舗が1000箇所達成

昨年3月の本格運用の開始から1周年を迎え、47都道府県で「見える化」された農産物が誕生し、「みえるらべる」を表示した商品を販売している店舗等は累計1000箇所を超えました（令和7年2月末時点）。

農林水産省HP
プレスリリース

https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/250312.html



< 新潟県拠点のホームページに関するお知らせ >

新潟県拠点ホームページ

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>



更新しました

- 新潟県における「耕畜連携」事例集（概要版）（令和6年度版）

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata/jireisyu.html#kouchikurenkei>

新潟県拠点では、県内の生産者のご協力を得ながら、耕畜連携の事例集を作成しています。（概要版を随時紹介し、詳細版を令和6年度版事例集としてまとめる予定。）



- 新潟県における「農福連携」の取組事例集（令和6年度版）

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata/jireisyu.html#noufuku>

新潟県拠点が事務局を務める「新潟県農福連携推進連絡会議」では、新潟県内の農業者、福祉事業者による「農福連携」について、農福連携に取り組んだ経緯や就労状況等を分かりやすく整理した事例集を作成しています。



- 新潟県における「園芸作物導入」事例集（令和6年度版）

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata/jireisyu.html#engei>

新潟県拠点では、県内の生産者のご協力を得ながら、水田稲作に加え、野菜（園芸作物）をはじめとする高収益作物を導入する複合経営の事例集を作成しています。



新潟県拠点フォト・ギャラリー

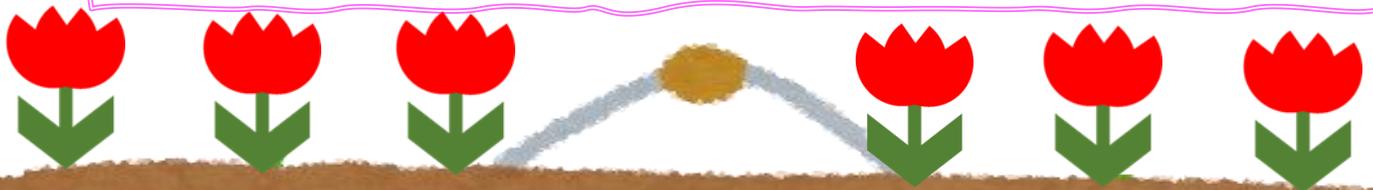
<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata/photo.html>



編集後記

3月に入り、だんだんと暖かくなってきたな〜と、感じられるようになって来ました。いよいよ、農業の春作業のシーズンになりますが、農家の皆様、安全対策を心掛けて、農作業事故の無いように気を付けて作業を行ってください。

農林水産省HP https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/index.html
< 農作業安全対策 >



お問い合わせ

北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「農業施策の〇〇について聞きたい。」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。

ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点地方参事官室
〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1
TEL 025-228-5216
ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

